

三陸再考

会員名簿

岩清水敬悦	小 川 惇	沖 野 覚	勝部 民男	木川田常男
菊池 洋市	木村 清且	近谷 宅美	佐川 秀雄	佐々木恒彦
佐々木博満	佐々木弘睦	猿渡 浩孝	菅原 紀昭	高橋 敏彦
田 中 清	中居 真一	中村 孝幸	平 野 周	堀 透
山内 光介	山 添 勝	六本木久志	若松 信行	渡 辺 力
渡辺 敏男				



大槌町役場



傾斜地を造成し、高所へと移動し続けてきた三陸集落

2011.03.11 15:25 三陸の時間が止まった

三陸沿岸の集落は、幾度も大津波の被害を受けてきた。そのたびに海岸から後退し漁業の利便性から再び海辺に戻り、また被害を受けるといった繰り返しを続けてきた。津波との闘いの結果、背後の山を切り崩し、その中間の高台に平地を造成し高所への移動が進められ集落の景観を形成してきた。気仙地方の漁村では軒に出桁をだし、先端に鼻桁を渡して垂木をかける「セガイ、センガイ(世階・青海)造り」の住居が数多く分布している。軒出しを多くして軒の体裁を整えたこの構法は立体的な構成で重厚である。豊かな海から富を得た漁村では、豊かさの象徴として、海を眼下に望む「セガイ造り」の家を競って取り入れた。海への感謝と恩返し表現でもあり、闘いの象徴であるかのように集落の景観が創られてきた。歴史は繰り返し再び想像もできないほどの大津波が三陸を襲った。防潮堤によって、海のそばまで開発され、市街地や漁港近くの利便から新たに造成された住宅地などが、ことごとく破壊された。高台移転を繰り返してきた小集落でも、漁港施設・家屋流出の被害は少なくなかったが、古くからの集落では、避難優先の意識や住民の連帯によって、被害を最小限にとどめた。産業の喪失・漁業施設の壊滅によって、三陸沿岸集落の時間が止って見える。しかし海と人々の生活は密接な関係をもって成立していて、悲しみや苦悩の中、海と真剣に向かい合わなければ生きていけない。復興の兆しが見えないまま住民の営みはもちろん、海と集落との関わり合いも何もなかったように続き、穏やかで美しい海にひっそりと人々が寄り添っている。



釜石市唐丹・花露辺集落



旧三陸町吉浜・千歳集落



岩手地域会・三陸調査委員会



旧三陸町砂子浜の住居



旧三陸町綾里の住居



明治期に高台移転をした旧三陸町吉浜・大野集落



旧三陸町合足のセガイ造り住居



宮古市津軽石の住居



旧三陸町吉浜・千歳集落の板蔵



釜石市鵜住居・箱崎白浜集落

三陸の集落は津波によって破壊され、再生されながら形づくられた。集落の高台移転は容易ではなかったが、意識的に行われた。海と対峙し共存するために、強い絆で結ばれた共同体が育まれてきた。海とともにあって、高台移転を余儀なくされる非合理には、命を守り次世代へ、未来を託した先人たちの「永遠への循環」の思いが込められている。

再生から自立へ：2011.3.11 ～

自然と寄り添い、三陸の集落が息づく「三陸特区」が設定される。地元住民、ボランティア団体など地元の手で、企画・計画・実施・運営される「三陸再興プロジェクト」が動き出す。①防潮堤決壊地域の再生プロジェクト：景観作物や環境作物などの自然再生などが実施される。②集落整備プロジェクト：美しい集落の保全のための建築条例策定、街づくりや建築の専門家・三陸の伝承構法「気仙大工ユニオン」等と連携・共同による街づくりが実施される。③新しい共同体づくり：自治の再編により、住民やボランティア・NPO 団体等との共同体が動き出し、地域主権の自治体となっていく。④漁業の再編：小さな集落では、漁船・漁具の共有が推進され、共同養殖施設、定置網協同組合等が主立ってくる。また、新しい共同体により雇用の確保と安定収入の施策が次々と実施される。⑤観光事業：昭和 45 年の岩手国体開催まで、縦貫道路のなかった三陸は陸の孤島そのものであった。その後も三陸観光は浄土ヶ浜など団体客向けの周遊コースにとどまっていた、三陸海岸線総延長 670 km あまりの中で、大半を占める集落周辺の海岸線と集落の付まいは観光資源となっていなかった。大震災以前は集落に一軒程度の釣り客用の民宿があったが、集落全体での観光計画が推し進められ、宿泊が可能な施設も街づくりの一環として整備される。人々の息遣いが感じられる漁村の風景と海の幸、豊かな自然に寄り添う三陸の集落は、滞在型の保養地としてよみがえる。